

やってよかった!

解決志向でケース会議

第1回

「問題志向」より「解決志向」で リソースを見つけよう



北海道教育大学大学院学校臨床心理専攻教授

久能 弘道

くのう ひろみち 解決志向アプローチを実践して四半世紀が経過しました。この間に会った数多くの児童生徒、保護者、教職員の皆さまが、私の解決志向アプローチの師匠です。



読者の皆さま、はじめまして。私が「解決志向」の実践をし始めて、今年でちょうど4半世紀という節目を迎えました。そんなタイミングでの連載スタートに、読者の皆さまとの浅からぬご縁を感じています。私の「解決志向」とのご縁は、ほんの森出版の書籍でお馴染みの黒沢幸子先生と森俊夫先生のワークショップへの参加から始まりました。以降、国内外の先達を訪ね、解決志向アプローチを学校教育実践へどう適用するかを研究してきました。

なにより、私に「解決志向」について多くのことを教えてくれたのは、スクールカウンセラーとして小中学校や大学の教育相談室で出会った数多くの児童生徒、保護者、教職員の方々です。難しいと言われた子どもたちや保護者ほど、振り返ってみれば、私にとつての最高の師匠でした。

「問題志向」と「解決志向」

学校で教育相談の実践を重ねておられる先生方に、改めて「解決志向」について解説するのは、文字通り、釈迦に説法ですが、初めて教育相談の担当になった方もおられるかもしれません。まずは「問題志向」と対比しながら、「解決志向」について簡潔に説明していこうと思います。

*

「問題志向」による思考法は、「問題」を改善する・なくす」もしくは「悪いところを直す（治す）」という考え方で

解決志向でケース会議

す。「短所や欠点を矯正する」「できないことをできるようにする」「ないものを補う」という発想でもあります。この思考法は自然と「まずは『問題』について、よく吟味し、その原因についてもよく調査することで、『問題』について十分に理解することが問題解決につながるはずだ」という思考法・実践法と結びつきがちです。

ところで、「問題志向」は教育相談やカウンセリングなどの対人援助場面において役に立っているでしょうか。もちろん、この方法でうまくいっていることも少なくないでしょう。その一方で、経験豊富な援助者ほど、このやり方ではうまくいかないことが多い、特に難しい事例と言われるときほど、役に立たない、もしくは逆効果であるということを感じていらつしやるのではないのでしょうか。

このような懐疑から、「解決志向」は生まれました。「問題志向」とは思考法・実践法において大きな転換があります。「解決志向」による思考法は、「うまくいっていること、よいところを維持する・増やす」もしくは「長所、利点、強みを生かす・伸ばす」「すでにできていることを維持する・増やす」「あるものをうまく利用する」という発想でもあります。この思考法・実践法では、あえて「問題」やその原因には焦点を当てません。その代わりに、「長所、利点、強み」を探出し、引き出し、利用することで、「うまくいっていること」を増やすことに取り組みます。

このようにして、「問題」とは無関係に「解決」をつくって

いくことによつて、結果としてもとの「問題」も解消していく（あるいは、もはやどうでもよくなる）ということになります。

ここからは、具体的な事例を示してみたいと思います。

【事例】非行傾向のある女子中学生A子

A子は中学校3年生。父、母、年の離れた弟と妹の5人家族。貧困層に属する。A子には非行傾向が見られ、学校にもほとんど通っていない。たまに登校しても教師の指示にはほとんど従わない。自傷（リストカット）、他害（他者への攻撃性が強く、暴言や暴力）もある。A子は現在、母親への暴力で保護観察中。かつては、近所の友人宅に入りびたりで、異性との交遊や飲酒の疑いもあったが、現在は足を洗ったと母親に話しているそうである。

A子は父親から母親へのDVを幼少からずっと見て育ってきた子どもである。父親と4人は現在別居中で、母親は法的手続きをとっており、現在父親に対して裁判所から接近禁止命令が出ている。母親は深夜遅くまで繁華街の飲食店で働き、夫以外の男性の影もつきまとい、週に1〜2度は帰宅が明け方になることもある。

A子は、弟と妹のことをとてもかわいがっており、このまま4人での暮らしを続けることを望んでいる。そのため、自分が働いてお金を稼ぎたいと話している。

「問題志向」による事例へのかかわり

いかがでしょうか。ちょっと聞いただけで、絶望的というか、圧倒されそうな事例とも思えたのではないのでしょうか。A子の「問題」を挙げようとすれば、学校へ行かない、教師の指示に従わない、リストカット、暴言や暴力、異性との交遊、飲酒など、キリがありません。また、A子の問題の「原因」には、貧困、アルコール、反抗的性格、性的規範の逸脱・欠如、父母の不仲、DVの目撃によるトラウマ、機能不全家族など、さまざまに憶測されます。

「問題志向」の有効性に疑念が生じる理由として、次の2点が挙げられます。1点目は、この事例で言えば、「問題」やその「原因」を探っていく過程で、A子や家族と援助者側との関係性の悪化が危惧されることです。援助者たちの間でA子や家族を悪者（厄介者）扱いする空気が醸成されてしまい、援助者側の士気を下げってしまう危険も大きなマイナス要素となります。

2点目は、相当な時間と労力をかけ、かつ関係性が悪化する危険まで冒して探った「問題」についての理解や「原因」についての憶測が、介入段階における具体的な支援に、どのように役立つのかはつきりしないという点です。

登校や規則正しい生活を促すこと、先生の指示に従うよう指導すること、暴言・暴行や飲酒をやめるよう諭すこと、母

親に勤務時間や男性関係の再考をもちかけること、アルコールに手を出した理由を聞き出すこと、どうして父母は不仲になってしまったのか尋ねること、家族の機能不全を回復させること……。はたして援助者がこれらを実行、実現することが可能でしょうか。そしてそれは、A子と家族に役立つことなのでしょうか。

「解決志向」による事例へのかかわり

その一方で、問題山積に思えるA子にも、「解決志向」で焦点を当てると、にわかに「うまくいっていること」「よいところ」「強み」「すでにできていること」「すでにあるもの」が立ち現れてきます。貧困層に属しているながらも、なんとか力強く生きてきたこと、たまに学校へ行っていること、異性との交遊や飲酒から現在足は洗ったこと、母親に打ち明け話ができたと、父から母へのDVを見て育ってきたにもかかわらず弟や妹をかわいがっていること、そして、母親は法的な手続きをとれたこと、母親は深夜まで働き家族を養っていること、母親は家族を捨ててしまっていないことなど、実に多くのリソースがあります。

これらは、次の段階での具体的援助につながっていきます。「どんなことから、交友関係や飲酒について、足を洗おうと決心したのですか？」

「決心したことを実行に移すことはそんなに簡単なことでは

ないですよね、どうやって実行できたのですか？」

「大変な状況の中を、これまで生き延びてこられたのは、何が支えになったのですか？」

「(そうしてこられたのは) あなたにはどんな力があるからですか？」

このように、間接的にコンプリメントをしつつ、さらなるリソースをA子から引き出します。

「母親、弟、妹、自分の4人で一緒に暮らし続けるというあなたの望みについて、もう少し教えていただけますか？」

「働いてお金を稼ぎたいということですが、はじめの一步では何をしていますか？」

このような「解決志向」の質問が、未来イメージを膨らませ、子どもをエンパワーしたり、本人や保護者とのよい関係につながったりしていくのです。

支援や援助に役立つ2つのヒント

おわりに、これまで教育相談や心理的支援に尽力されてきた方にはもちろん、これから携わっていく方にはなお、支援や援助に役立つヒントを2つお伝えできたらと思います。

A子のような、まさに圧倒されそうな事例に対しては、「大きなことを思い切ってガツン」と行わなければ変化が生じない、と人は一般に信じ込んでいるようです。ただ、心理臨床、特にブリーフセラピーではその逆で、「小さなことをソフトに

ゆっくり」とすすめたほうが、結果としてうまくいくというパラドックス(逆説)に実によく出会います。

そして、「解決志向」の中心哲学の1つである「うまくいっていないければ、何か違ったことをせよ」です。A子の事例もそうですが、多くの難しいと言われる事例の中には、「問題志向」であれこれとやってみたものの、よい効果がなかった(むしろ逆効果だった)というものが少なくありません。そんなときこそ、「何か違ったこと」として、「解決志向」の発想とかわりが役に立ちます。難事例ほど、「問題」ではなく、リソースや本人の望む解決イメージに焦点を当てたかわりが役に立つということを経験が教えてくれます。

次回は、「学級崩壊」でのケース会議の事例を扱う予定です。多忙と言われる学校現場でケース会議を少しでも有意義で「やってよかった!」と思えるものにするために、そのヒントや視点をお届けします。どうぞお楽しみに。

問題山積に思えるケースでも、「解決志向」では、さまざまなりソースが立ち現れてくる。問題や原因を掘り起こすより、リソースや解決イメージに焦点を当てたかわりが役に立つ。

〈参考文献〉

ピーター・ディヤング、インスロー・キム・バーグ(2016)『解決のための面接技法「第4版」ソリューション・フォークアスタプローチの手引き』桐田弘江、住谷祐子、玉真慎子訳、金剛出版

※本連載の事例は実際の事例をもとにした架空のものです。